

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和2年度 第1回佐渡市入浴施設あり方検討会
開催日時	令和2年8月24日(月) 14:30~16:50
場所	佐渡市役所 大会議室
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 市長あいさつ</li> <li>3 委嘱状交付</li> <li>4 委員自己紹介および事務局紹介</li> <li>5 委員長および副委員長の互選</li> <li>6 検討事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 本市の財政状況及び人口減少を踏まえた民間施設を含めた適正な施設数及び施設配置</li> <li>② 施設利用者数の減少抑制の方策</li> <li>③ 島民以外の利用度の向上策</li> <li>④ 市温泉施設の有効活用策</li> <li>⑤ 介護予防等福祉分野との連携の可能性</li> </ol> </li> <li>7 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入浴施設あり方検討会について</li> <li>2) 佐渡市の現状と課題について</li> <li>3) 市内の日帰り入浴施設の現状について</li> <li>4) 市有入浴施設の現状と課題について</li> <li>5) その他                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の検討会日程について</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>8 閉会</li> </ol>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>《入浴施設あり方検討会委員》(6名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長 西川 祐一</li> <li>・副委員長 清永 治慶</li> <li>・委員 南島 和久、橋本 美子、小田 隆晴、本間 義英</li> </ul> <p>《市役所》(4名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐渡市長 渡辺 竜五</li> <li>・事務局 市民生活課長 齊藤 昌彦 温泉施設係長 池 雅彦 温泉施設係主事 川上 一貴</li> </ul>

会議資料	<u>別紙のとおり</u>
傍聴人の数	4名
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
池係長 渡辺市長	<b>1 開会</b> <b>2 市長あいさつ</b> <b>3 委嘱状交付</b> <b>4 委員自己紹介及び事務局紹介</b> <b>5 委員長および副委員長の互選</b> （令和2～3年度の委員長の互選について、委員の互選により委員長は西川委員、副委員長は清永委員とすることに決定。）
西川委員長	・委員長として、入浴施設に関しては住民の思い入れの強い場所であり、他の公共施設と同じように扱うことはできないと認識している。とてもデリケートな案件と捉えていただきたい。皆様のお力添えを願う。
清永副委員長	・今の温泉のあり方について視点を変えていかなければならない。
西川委員長	<b>6 検討事項</b> （事務局より、次第を基に検討会全体で委員に検討する事項について説明）
池係長	・今、5項目について説明があったが、これから年間を通して、その検討項目全体について検討するという解釈で良いか。 ・その通り。
池係長	・議事に入る前に、清永副委員長から事前に温泉と観光を絡めた提案をいただいているので説明してもらってもよろしいか。
西川委員長 清永副委員長	・説明してもらって良い。 ・実際に温泉に行く層は年配の方がほとんど。リクルートと連携して、大学1年生に対し旅行への意識を高めるため温泉を無料にするキャンペーンを企画している。10月実施予定。 ・また、佐渡の温泉はブランド価値が無いと思われている。全国の温泉100選にランクインする位を目指すべきではないか。
池係長	・本日欠席の鶴間委員からも提案をいただいている。主に子ども連れ

	<p>の温泉利用に関しての提案。(内容の紹介)</p>
西川委員長	<p>7 議事1) 佐渡市入浴施設あり方検討会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事に入る前に、どの議題がどの資料に対応しているか説明を求め</li> </ul>
南島委員	<p>(事務局から資料の説明および検討会スケジュール案について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市有温泉の運営方針について、10月に中間報告があるが、ここでの検討以外に行政部局内や議会への手続きは他にどのようなものがあるのか。検討の全体像を教えてください。</li> </ul>
池係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のところ市民生活課で検討し、市長決裁する流れ。議会には報告して承認してもらおう。</li> </ul>
西川委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴施設のあり方について、<u>行政の基本的な方向性はどういう考えなのか</u>。なぜ我々に検討を求めるのか分からない。全く立場フリーで何でも意見を聞きたいのか、行政がこれまで行ってきた方針についてもっと大胆に言って欲しいのか。例えば維持経費が莫大なので存廃を見極めたいのか、公共性、実施主体の妥当性、施設が住民生活にとって不可欠なのか、他に代替手段がないのか。この検討会は佐渡市全体の問題。市民生活課だけで収まる話ではない。観光も地域振興も農業にも波及する。あらゆるセクションから叡智を集めていかなければこの問題は打開できない。</li> </ul>
池係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政も悩んでいる。無償貸与で経営している状況があまり良くない状況。行政で目的の無い普通財産を温泉として貸し付けている。用途が無いものに補助金を出していることが不適切だと認識。市民ニーズが高いからだが、あるべき姿にもっていかなければ。施設も老朽化して維持できない。適正な施設数の提案をいただければありがたい。あらゆるセクションで考えていく必要があることは理解している。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今事務局がおっしゃった普通財産の無償貸付は適切ではないという説明について聞きたい。それは条例に違反しているという意味か。それとも一般的な議論(違反はしていないが望ましくないという意味)を言っているのか。</li> </ul>
池係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当すると言えば該当する。無償貸付3施設を運営する条例はもう無い。運営する根拠が乏しい。市は民間に建物を貸すだけであつたのに、補助金などの支援が重なっていることが適切ではないということ。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸付契約する上で財産条例など利用料の規定があると思うが。</li> </ul>
池係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決裁を得て議会にも報告して同意してもらっている。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・違法ではないという意味で良いか。</li> </ul>
斉藤課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足すると、市の所有する財産は行政財産と普通財産に分かれる。</li> </ul>

市が運営する目的が無くなったら普通財産に移行する。ただし普通財産にも 2 種類あり、目的を持ったまま普通財産にしているものもある。市の所有する無償貸付 3 施設については、温泉事業を行う目的で普通財産を貸し付けている。違法ではない。

## 7 議事 2) 佐渡市の現状と課題について

(事務局による説明)

西川委員長

・これまで行政改革大綱に従って入浴施設を整理しているという認識で良いか。

池係長

・その通り。

## 7 議事 3) 市内の日帰り入浴施設の現状について

(事務局による説明)

西川委員長

・事務局から 10 施設だった温泉施設が現状どうなっているのか、佐渡市の民間を含めた入浴施設数が、他市町村と比べて多いのかどうか、位置づけを読み解く必要があるとの説明があった。

池係長

・民間施設も含めたそれぞれの入浴客数がどの程度かという資料について、可能な限りそろえたい。

清永副委員長

・そもそもの話、各施設がどういう目的で建てられたかさかのぼって確認すべき。建設された経緯や目的に沿って今後の方針を決めなければ。目的が違うのに人が来ないから廃止する、という単純な話ではない。

清永副委員長

・私が思うに、佐渡の温泉は観光としての蓄積した歴史がまだ浅い。今までやってこなかったのにいきなり観光客向けにシフトしても無理がある。建替えるにしてもそもそもの目的と合致しているのか、用途と実際の利用者の目的にギャップがあるのではないか、また目的が現在の状況とどう違うのか整理しなければならない。

池係長

・掘り下げが十分ではなかった。もう一度検討したい。

齊藤課長

・これまで市が所有してきた 10 施設、いずれの施設も建設から 20 年以上経過している。できた当時の事情を知る職員も少なくなった。清永副委員長から指摘のあったそもそもの設置目的はどの施設も「健康増進」であった。当時はクアハウスがブームで、ふるさと創生事業を使って各市町村がどこでも温泉を掘り始めた。原点に立ち返るとすればそもそも入浴施設は「健康増進」の場である。その一方、どの施設も建設から 20 年以上経過し、老朽化している。現実を踏まえた議論が必要。

西川委員長

・建設当時の発想の原点を定めた資料提示をお願いしたい。

南島委員

・健康増進の効果を図るため、それぞれの施設の周辺の住民数、高齢

西川委員長	<p><u>化率、住民の状況を数字で示した資料を提示</u>して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>佐渡市以外でも実際に入浴施設のあり方を公表している自治体は少ない。現在までに<u>入浴施設へ支出した総額（補助金や修繕費）と、100円を稼ぐために施設が要した経費</u>を示してほしい。現状認識したうえでどういう風に経営体質を改善できるか考えたい。</li> </ul>
清永副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数と決算収入を比較すると、松泉閣を除いて収入の単価が利用料と比べてもだいぶ安い。本来民間企業であれば利用料より収入が多くなるはず。収入単価をどうやって上げるかが課題。運営補助金を出さなくても経営状況をしっかり把握した上で支出すべき。</li> </ul>
池係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>松泉閣の単価が高い理由は、併設されたこがね荘の宿泊収入が含まれているためである。</li> </ul>
<p><b>7 議題4) 市有入浴施設の現状と課題について</b> (事務局による説明)</p>	
小田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を見た時、ビューさわが平成30年度から令和元年度にかけて収支が10倍も悪くなっている理由は何か。</li> </ul>
川上主事	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度は収入に指定管理料の14,580千円が含まれているせいである。指定管理料を除けばH30とR1の収支にそれほど差はない。</li> </ul>
小田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人的に松泉閣をよく利用していたが、2階浴室やサウナが利用できなくなり利用者が減った。どの施設も老朽化しており、現状のまま維持していくのは不可能。個人的意見だが、新しい施設の建替えも視野に入れなければならない。</li> </ul>
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴施設に関しては建設当初から目的がしっかりあれば良いのだが、振り返って考えると、建設当時どの自治体も競って入浴施設を建てていたように思う。もともと建設時にしっかりした目的は無かったのではないか。まずは目的をはっきりさせ、住民に説明していく必要がある。このままではみんなが共倒れになってしまう。</li> </ul>
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>利用者層の10年後、20年後をシミュレートした図</u>が欲しい。今後利用者が少なくなっていくのではないか。</li> </ul>
本間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>私は新徳湯上温泉、松泉閣のどちらも近いが、家の風呂のほうがいい。</li> </ul>
西川委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設についての市民アンケートを以前取ったことがあるが、その中でも入浴施設についていろいろな意見があった。</li> </ul>
清永副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>収入から補助金を除いて<u>利用者一人当たりの客単価をシミュレート</u>してみてはどうか。また、<u>市の入浴施設にかけた経費を人口で割り、市民1人当たりの税金がどれだけ使われているか</u>を調べることで各施設の成績表ができる。利用者数が減れば単価が上がるので利用者数を増やすしかない。利用者1人当たりに使われる税金を減らせるよう経営体質を改善させる必要がある。その結果赤字でも健康が目的なら健全な赤字事業として継続する価値がある。</li> </ul>

西川委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の見せ方も中身が読み解けるようにしたい。客単価など、市民に説明していくためにも、まずは<u>基礎となるデータ</u>で示してほしい。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収支には補助金が含まれているので経営状況が読み解けない。経営面でどういう状況なのか、まず基礎情報が欲しい。</li> </ul>
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴施設の目的が健康増進のためなら、住民向けに利用料を補填する施策は妥当。ただ観光と健康増進の両方の目的で支援となると目的の仕分けが難しい。政策目的の交通整理をしないと市民の不安をあおることになる。指標となる数字でいうと、単純に住民の利用者数を増やそうとするなら半額キャンペーンを実施していればよいが、常時半額で運営は継続できない。経営とのバランスが必要。</li> </ul>
西川委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議事項の中に入浴施設は4つだけしか出ていないが、今後協議する入浴施設が増えることはあるのか。市有入浴施設だけで良いのか。例えば譲渡済みの施設も対象に検討すべきか？更に佐渡市全体の民間の入浴施設も含めた検討をすべきか？</li> </ul>
池係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>このほかに市有入浴施設としてあかどまり城が浜もあるが、別の枠組みで考える。今回の検討からは除外する。譲渡済みの施設は考慮しない。</li> </ul>
西川委員長 斉藤課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>もしかしたら譲渡した施設が戻ってくる可能性なども考えた。</li> <li>市長は、民間施設を含めた入浴施設の適正配置を知りたいと考えている。要綱上では単に市の所有する入浴施設のみを検討することになっている。この4施設について検討することが第一。譲渡済の施設は佐渡市として必要ないと結論を出した施設なので更なる検討はしない。しかしながら民間のホテルや旅館などにも日帰り入浴施設はあるので、民間とバランスを取りながら配置を決めていきたいと考えている。</li> </ul>
西川委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近民間の入浴施設運営者を集めた佐渡市温泉活性化協議会でも独自のキャンペーンも実施しているようだが、民間を含めた入浴施設の支援という点ではこの活性化協議会と考え方が重なる部分も多いと思う。</li> </ul>
斉藤課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの施設も手放しで喜べる要素はない。問題点は経営だけではない。それを踏まえた上で結論を求める。</li> </ul>
小田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後10年は、後期高齢者は減らない。千葉大学の研究で、毎日入浴するグループは明らかに要介護のステージ進行が遅くなるデータが出た。健康増進の観点で高齢者を対象にした入浴促進キャンペーンを実施することは重要。</li> </ul>
池係長	<p><b>7 議題5) その他 次回の検討会日程について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9月28日から30日の間で調整する。←9月30日で決定。</li> </ul>

清永副委員長	<p>8 閉会 (清永副委員長より閉会の挨拶)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回の検討会では、立場からのエゴを出してもいいし、どうやってエゴを失くすかも大事。そのために次回までに事務局は、<u>各施設の状況について公正な判断基準を示したたたき台となるデータ</u>を作ってほしい。</li></ul>
--------	---